

鳥取市に残る最古の鉄筋コンクリート建築「五臓圓ビル」（鳥取市二階町2丁目）が、国の登録有形文化財になることが決まった。国の文化審議会は11日、文部科学相に答申した。一時取り壊されようとしていた街のランドマークは、住民らの手で生まれ変わろうとしている。（佐藤建仁）

若者着目、再生始まる

智頭街道と三階町通りの交差点を見下ろす3階建ての五臓圓ビル。1931（昭和6）年、本格的な鉄筋コンクリート造りとしては市内で県立図書館に次ぐ4番目に建てられた。スクラッチタイルが張られた外壁、蛇腹を施した曲線の外観、イタリア産大理石を使った内装など当時の最先端を走るモダン建築としてひととき目を引いた。1階は所有者の五臓圓薬局、2階は住居、3階はレストランが入居してにぎわいを見せた。1943（昭和18）年の鳥取大震災で周りの木造住宅が倒壊したのにビルの被害は薬瓶が棚から3本落ちただけ。1952（昭和27）年の鳥取大火でもビルの構造部分は焼け残り、補強工事をして使われた。持ち主で薬局社長の森下章さん（52）は「当時から知るかから、まだ店を続けてくれたのか」と感慨深げに声をかけられることが今もある」と話す。

森下さんもビルの解体を考えた時期があった。約10年前、「ドスン」と大きな音が

したので外を見ると、外壁のコンクリートが店先に崩れ落ちていた。雨漏りもひどく建て替える検討し始めると、地元のお店主らで作る智頭街道商店街振興組合のメンバーから「地域を活性化するためにビルを再生させよう」と声があがった。

今年6月に「五臓圓ビルを保存活用する会」が発足し、ビルの改修、保存の募金運動が始まった。先月には空いている2、3階を使った「ナイトカフェ」を一日限定で店開きしたところ、好評だったので今後も月1回程度、店を開くことになった。

●現在の五臓圓ビル●鳥取市二階町2丁目●鳥取大火直後の鳥取市二階町かいわい。五臓圓ビルは焼け残った（五臓圓ビルを保存活用する会提供）



県出身で、東京などで建築やデザインを学ぶ若者らの集まり「トットリ・クリエイティブ・プロジェクト」も、レトロな雰囲気や醸すビルの魅力に着目。学生らの提案でミニコンサートや映像作品の上映、絵画や彫刻を展示する期間限定のイベントを開催する計画も進行中だ。森下さんは若い人たちがビルの魅力を教えてもらった。新しいものを作る発想に縛られていたが、古くからあるものを大事にして、そこから新しいものを生み出したいと話している。